

## にいがた教育フォーラム 2020 in March (中止)

横堀 壮昭

3月7日(土)、新潟大学教育学部において様々な立場の方と集い、教育や子どもについて語り合い、ともに学び合う機会として「にいがた教育フォーラム 2020 in March」を実施予定だったが、新型コロナウィルスの流行への懸念から、開催中止となった。開催中止が決定された2月26日時点で170人以上の参加申し込みがあった。

【プログラム】	10：10～11：40 ワークショップ
	12：40～14：10 ポスターセッション
	14：30～16：00 ラウンドテーブル

### 1. ワークショップの概要

ワークショップは、テーマ「学校教育に役立つ技術等を学ぼう」のもと、教職大学院修了生、大学教員、各分野の専門家や附属学校教員が講師を務め、専門的な視点からの講話や演習、交流など、多様なスタイルでの講座が計画されていた。内容(表1)は多岐にわたっており、全ての講座に多数の参加希望があった。

表1 ワークショップの内容

No.	ワークショップテーマ
1	日本語のもつ身体性、音楽性 ～音楽科と国語科をつなぐ～
2	いじめ被害経験者との直の対話から学ぶ ～なぜ教師は彼を救えず「見ぬ振り」ができたのか？～
3	実感を学びにつなぐ教材や授業の工夫 (衣生活編)
4	感情のコントロール ～コミック会話とアンガーマネジメントを活用して～
5	学級担任につくる小学校外国語の授業
6	学級診断ツールQ-Uを用いた校内研修の方途 ～新項目が加わったQ-Uの解釈と対応を中心に～
7	社会に開かれた教育課程を創る ～特色ある教育課程の事例研究～
8	試行ツールでつくる「考え、議論する道徳授業」
9	新学習指導要領のもとの社会科カリキュラムと 楽しく力のつく社会科授業づくり
10	授業の事例検討を通した子どもの学びの分析

## 2. ポスターセッションの概要

ポスターセッションは、教職大学院院生が各自の研究について発表し参加者とともに議論し合う予定だった。今回のフォーラム中止を受け、院生有志の呼び掛けから、有志によるWeb上でポスターセッションを行った。ポスター等発表資料は、クラウドから閲覧できるようにし、ポスターセッションは「Zoom」によるビデオ会議システムと「Slack」によるチャットを活用して行った。初めての試みだったが、Zoom、Slack上では、活発な意見交換がなされた。院生からは、「対面と同レベルのスムーズな協議ができた。」「今後このような機会が増えてくると思うので、実際に体験することができてよかったです。」「自分自身のこれまでのコミュニケーションの仕方が、いかにその場での空気や相手の反応等の非言語の部分に頼っていたことが分かった」といった声が聞かれた。Web上のポスターセッション終了後の参加者アンケートでは、全員が「大変満足」または「満足」という回答であった。

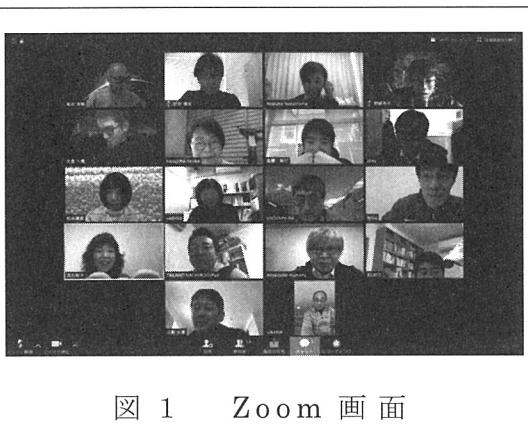


図1 Zoom画面

3月14日(土)

Kenta IGARASHI 10:48  
①高齢さんの発見  
古田先生  
今までの授業と生徒の反応はどう変わった?  
→今までの授業と比べて、生徒が主体的になった。「これどうなんだろう?」という会話が増えた。  
岡部先生  
中学生教育の近況は、課題を考えがら、..子どもが聞いているだけになっている。尋ねてベース的な話だけれど、非常に大切だとやっている。  
生徒の実態としては、本当に分からない子どものやうな問題。(監修:江川)  
高野さん  
予定よりも時数が増えた。生徒の反応としては、「どうして答えを教えてくれない?」というような反応。(監修:江川)  
古田先生  
生徒が主体的に取り組むことが大切。「わかる」、「分からない」と表現を持つてやることが大切。  
中学生の表現、「わかる」、「分からない」よりも苦手かどうかになっている。  
先生が、解説方法を変にして、それをもう1回自分でやつべらん。ただし、やり方は生徒が自由に選べる。先生に聞く、自分で調べる、自分でやる、など。  
「調べる方法」をデザインしてみると、もっと面白くなるかも?!

今日は、時間がたくさんかかったようだが、できる子が分からない子に教えにいくなどすれば、時間が減るかもしれない。  
し、学級経営にもつながるのではないか?

Kenta IGARASHI 11:28  
・子どもたちとじっくりして、この学級ではどういう質問をしていくとよいのか練習する。  
・教師が全てをコントロールしていくのは難しい。教師は教室の中に居る1人。  
・子どもが、授業の中で感じたこと、学んだことを表す時間を保有することが大切

図2 Slack画面

## 3. ラウンドテーブルの概要

ラウンドテーブルは、六つの分科会（①教育課程編成、②授業づくり、③生徒指導・教育相談、④学年・学級経営、⑤学校経営、⑥特別支援教育）に分かれて実施される予定であった。